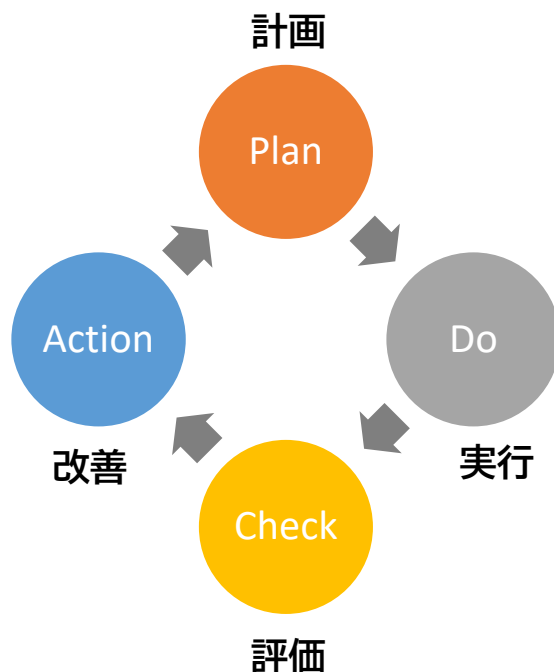


計画の推進に向けて

PDCAサイクルによる計画の推進

新たな総合計画の策定では、実効的な計画にすることを意識し、基本構想のまちの将来像や、その実現に向けた基本目標に基づく、施策体系の整理を実施。各施策では、現状と課題をとらえ、「めざす姿」～「主な取組方向性」を設定し、そのうえで施策の進捗を図るための「数値目標」を設定。計画のロジックを明確にしたうえで、PDCAサイクルに基づく計画推進の仕組みを確立する。



- 毎年、実施計画を策定し、具体的な取組方針を決定し、計画に基づく予算編成を図る。その後、取組（事業）を実施する。年度終了後、取組を振り返り、評価を行い、次年度の取組に向け改善・見直しを図る（※1）。
- 計画の進捗状況について、毎年度終了後、前年度の取組実績をとりまとめ、各施策の数値目標の達成割合を基に評価を行う。
- 計画の年度ごとの進捗度が見える化できるよう、評価結果については、レポートを作成し、市民委員・有識者からなる審議会（※2）及び市議会に報告を行う。

※1 総合計画のPDCAサイクルでは、計画部局の評価プロセスだけでなく、財政部局が行う決算資料作成のプロセスと連携させることで、具体的な取組（事業）の改善・見直しをより実効的なものとしていく予定。

※2 総合計画に関係する「総合計画審議会」・「地方創生審議会」・「行政改革推進委員会」の3つの審議会を整理統合し、総合計画を市民とともに推進するための新たな会議体を組織していく予定。

新たな志摩市総合計画に基づく「行政運営」の推進について（案）

計画の推進に向けて

市民に伝わる、わかりやすい計画づくり

「行政運営」の基本姿勢である「市民をはじめとした多様な主体との連携・共創」を進めるためにも、新たな総合計画の策定を通じて、市民の皆さんにこれからの志摩市のまちづくりをわかりやすい形で伝えていく。計画書の本体冊子について、読み手を意識した、わかりやすい平易な計画書を作成するだけでなく、図やイラストなどを用いた概要版の作成など、市民に伝わる手法について検討する。

（例）桑名市総合計画ダイジェスト版



- 親しみやすいイラストやキャラクターを多用することで、読んでみようという気持ちを起こさせる効果がある。
- どのようなまちの姿をめざすのか、イメージで、直感的にわかりやすく示すことで、理解が深まる効果がある。
- 市民に行政の取組に対して共感を感じやすくなり、まちづくりへの関心を高めてもらう効果がある。

「市民のみなさんとともに
これからのまちづくりを進めていく」
ということを感じてもらえるように